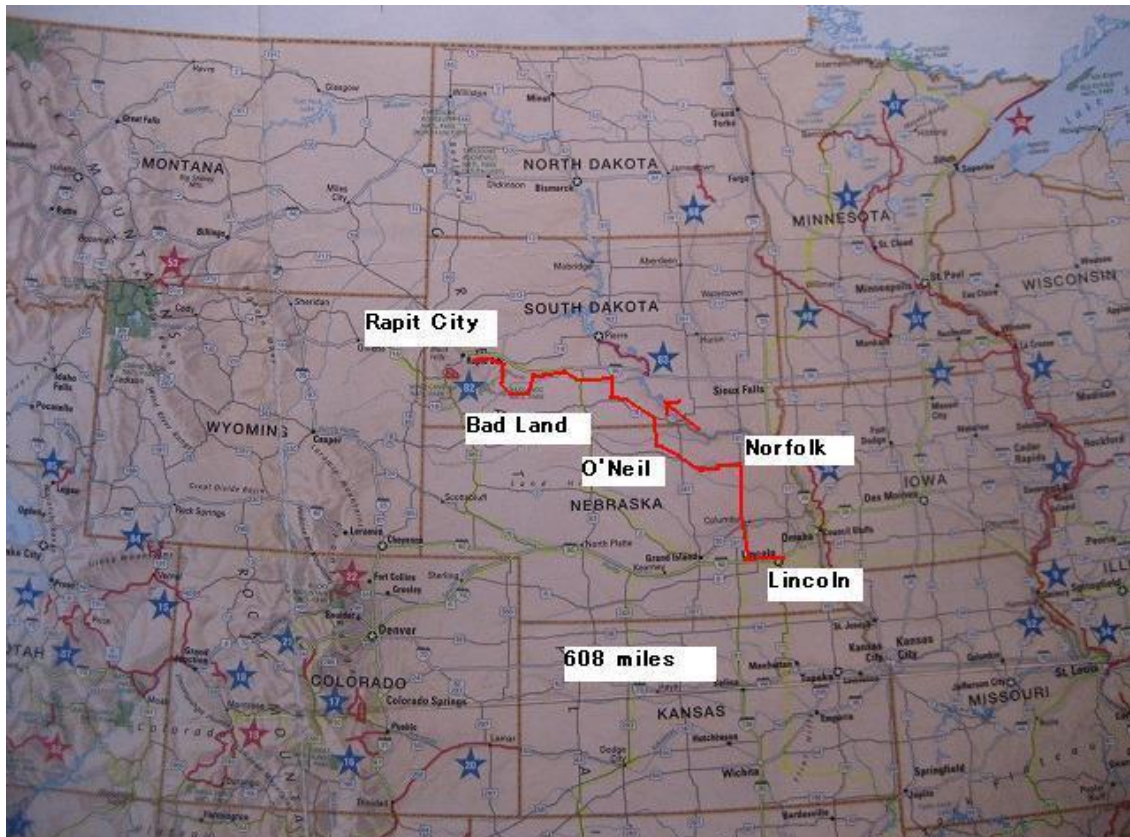


もう一度、モンタナまで

2007 08 31 ~ 2007 09 03

サウス・ダコタ、ノース・ダコタ、モンタナ、ワイオミング、そして、ネブラスカを走り回ってきました。



どこまでも続くこの直線道路。他に車が走っていませんので、この広大な平原の中では、120km/h出してもスピード感はありません。



トウモロコシ畑の中に突然、ひまわり畑が。このあたり一面、真黄色。素敵。



O'Neilの町のHistoric Marker
その土地にまつわる歴史が紹介されています。
カウンティハイウェイならではの発見です。



州の入り口には、こんな歓迎のカンバンが
立っています。ここからがサウス・ダコタ。



バットランドは、いつ来てもすごい迫力です。
なぜ、ここだけかと思うのですが、実は、ま
だまだ、こんな地形はアメリカには沢山あり



もともとは、この塚の頂上が大地になってい
たのですが、平地のレベルまで雨水で削り
取られたのだそうです。この平地には、化
石がいたるところから出現します。



どうしてこんな地形になるのかと、思わずう
なってしまうような、そんな岩が連続してい
ます。



写真を撮るために、その帽子を貸してくれと
言っていたラテンアメリカのおじさんが、
撮ってくれた写真です。とにかく、お気に入りの
帽子なんだから。



いつも同じポーズなのですが、これが痩せて見える角度なんです。



地層は、この場所の歴史を現しています。いまから、何万年とさかのぼることができます。



まるで、月の世界をドライブしている気分で



バッドランドは、こんな地形が延々と続いているのです。



こんな地形の中をトレッキングする湖とができますが、但し、ガラガラヘビに注意が必要です。



こんな写真がいつでも、どこでも撮ることができる。なんとすばらしい、アメリカの大地と痛感せずには居られません。



二度も、天候が悪くて断念したラッシュモアの大統領たちの顔です。やはり近くで見る実物の迫力はすごいです。でも、よくこんなことを考え付くね。



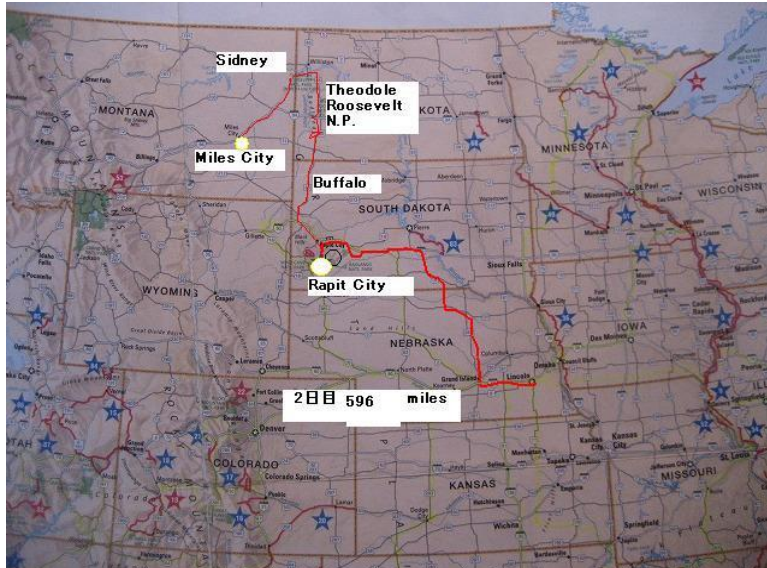
ここは、夜の八時まで開いています。すでに6時を回っていましたが、まだまだ沢山の人に来ていました。なお、横のご夫人とは何の関係もありません。念のため。

二日目

もう一度、モンタナまで

2007 08 31 ~ 2007 09 03

サウス・ダコタからノース・ダコタに入り、手緒ドル・ルーズベルト国立公園、そして、いよいよモンタナに入りました。



二日目の朝です。こんなにすばらしい朝日を見ることができるのは、早起きのおかげです。



おっ。虹が天頂まで見える。こんな虹を見たのは初めて。感激。
I-90 スタージスあたりで。



アメリカの典型的な田舎町。このメインストリートを抜けると、そこはもう大草原の始まり。



85号線をまっすぐノースダコタに向かう。ここがまた広大な平原。このすばらしい大自然の光景を独り占めですから、満足、満足。



二日目のお目当ては、テオドロール・ルーズベルト国立公園。ここは、バットランドの兄貴分という感じでした。



Crow butte ここは、スー族がクロー族に復讐のため襲撃した場所。クロー族は、この丘に立てこもったが、水を絶たれついに降参した。



とにかく、どこまでも続く大草原。その中での一コマ。何マイル先まで見えているんでしょうか。この広さには、流石の私もマイルよ。



いよいよ、ノース・ダコタに入る。ツーリストインフォメーションはこの先、約30^{キロ}のところにあると書かれています。その距離はすぐ近くという意味で



こんなカンパンのレストラン。うれしいではないですか、バッファローのお出迎えとは。



テオドル・ルーズベルト国立公園で。ちょうど紅葉が始まり、色とりどりのすばらしい場所でした。この地層



このあと、大事な帽子が飛んでしまいました。その瞬間です。



こちら側もがけですが、バレーの反対側にも、こんながけが続いています。



リトル・ミズーリという小さな川が削ったこの渓谷。地層の変化を見ていると何時までも飽きません。



リトル・ミズーリが、バレーを流れています。ずっと向こうにもこんながけがあるんです。ちょっとだけの紅葉も楽しむことができました。



あの崖の上には、こんな大平原が広がっているのです。この不自然さがなんともいえない調



そして、ノース・ダコタの草原をドライブ



そして、今回の旅の目的、Lewis-ClarkのTtasilの案内板。うれしいですね。こんな看板に案内されてドライブができるなんて。



イエローストーン川。ここをクラークとサカガキアたちが下って行ったのです。同じ景色を眺めながら、旅をしていたと思うと、思わずうれしくなって



こんな楽しい、ランチの案内板がありました。



もう一度、モンタナまで

2007 08 31 ~ 2007 09 03

マイルス・シティからイエローストーン川を溯りました。ビリングの町には、石油精製基地。ここから、ワイオミングのコディへと南下。ウインドキャニオンは、溪谷の下ドライブ。圧巻。シャイアンの手前、ウィートランドに宿泊。



こんなすばらしい夜明け。まるで光のマジックのようです。



対向車線はずっと向こう。そして、自分の前後には数マイルも車が走っていません。



Fortythの町のコートハウス。とにかく田舎町でもこんな立派なコートハウスがあります。



クラークが西洋人としてこの地に着てから、僅か20年で毛皮商人がここでビジネスを始めた



イエローストーン川の河岸を走る。バレーの上はこんな道が続きます



突然、こんな丘が出現。いまにもインディアンが出てきそうな丘でした。



クラークとサカガキアたちが辿ってくだったイエローストーンの川は、バレーの下を流れていま



Billings の町の一角



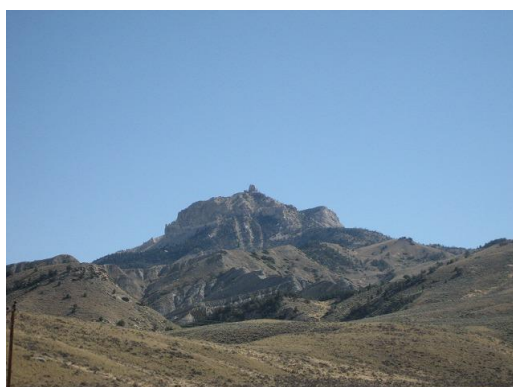
なんと、モンタナなこんな石油の精製基地がありました。驚き



すこし、カウボーイの気分でワイオミング入りです。



ここは、イエローストーンからの支流で、クラーク支流と名前がつけられています。



遠く、ワイオミングの山を望みます。



やって着ました、バッファロー・ビルの町、コディの博物館。



ビルの銅像の前にはこんな下段がありました。とてもよく手入れされています。この日、あまりの



これが、一世を風靡したステージ・コーチ。これで、西部を走りまわったわけです。



バッファロービルは、鉄砲の博物館でもあります。その展示の内容は圧巻。



彼らは、こんな熊と戦いながら、この地を開発してきたと言うわけです。



ここは、また、プレーリーインディアンの博物館でもありました。



コデーの町から、サーモボリスの町への途中で。



そして、また、こんな道をただ一人飛ばします。



すると、突然、こんな峡谷の間をハイウェイが走っていました。右にせせらぎ、左に崖の快適



ここは、ビッグホーン川。イエローストーン川からミズーリ川に流れ込みます。



この峡谷は、ウインド・リバー・キャニオンと名づけられた、隠れた名所でした。



キャニオンを抜けるとそこにこんな岩肌が現れました。この地層芸術に満足、満足。



ウインド・リバーの途中にできたリゾート地ボイセン・レイク。



湖の辺をしばらくドライブ。



そして、ワイオミングのどこまでも広がる大草原。この直線はどこまで続くのという感じ



こんな丘が出てくると、この大地は平らではないのだと、改めて感じます。



Casper の町はワイオミングの中央にあり、交通の要衝になっています。

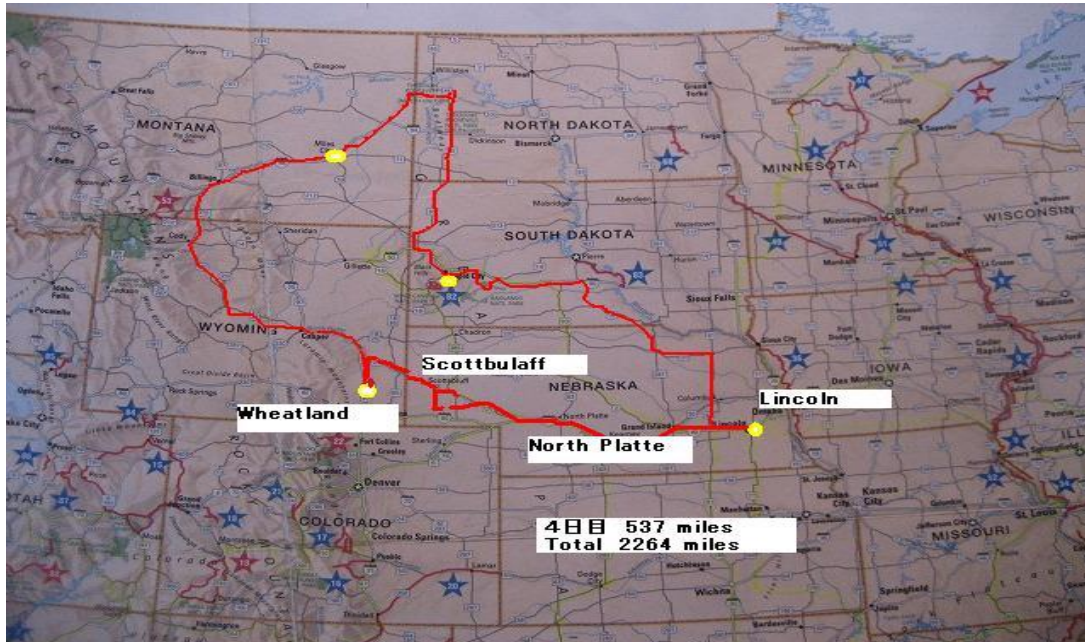


そして、この日の宿泊地、Wheatland までやって来ました。遠くにララミーでおなじみのララ

もう一度、モンタナまで

2007 08 31 ~ 2007 09 03

サウス・ダコタ、ノース・ダコタ、モンタナ、ワイオミング、そして、ネブラスカを走り回ってきました。



この日も素晴らしい夜明けを見ることができました。



ワイオミングからネブラスカを流れるノース・プラッテ川



おっ。スコッツブラフだ。三度目にして、初めて見るこの光景に間隙



ここが、モルモン・トレイル、オレゴン・トレイルの通り道だったとのことです。



Scottsbluffの南の端。これもみごとな城壁のような岩山でした。



この角度が**Scottsbluff**のもっとも馴染まれた角度です。この岩山の頂上近くまで、車で昇ることができます。



ここが、頂上近くの駐車場。ここから、先ほどの岩山の頂上、あるいは、南の端までトレッキングができます。ただし、ガラガラ蛇に注意とのことでした。



Scottsbluffから71号線を南に走り、それから、88号線に入ると、そこは、広大な農場となっていました。この広さ。馬



すこし、起伏のあるところでは、こうした牧場に変化します。牛はノンビリしていますね。風車がなんともいえない情緒を味あわせてくれます。



折角だから、こんなに広い農場のど真ん中でパチリ。お気に入りのカウボーイハットは似合っているでしょうか。



Courthouse and Jailとなづけられた、トレイルの目安として親しまれた岩山。今回は裏側から見ました。確かに



こんな写真が撮れるのが嬉しいです。



こちらは**Jail**と名づけられた岩山。いかにも中世ヨーロッパのお城にあった牢獄という感じがします。



そして、いよいよ、リンカーンに向けて。ここは、**Ogalala**の大農場地帯。すご〜い。



リゾート地となっている**Lake McConaughy**。治水用のダムであり、貴重な水源となっています。

ハイウェイは、湖の上の大地をはしっています。

こうして、サウス・ダコタ、ノース・ダコタ、モンタナ、ワイオミング、そして、ネブラスカを走り回る
たびが終了しました。走った距離は、

第一日目	608 mile
第二日目	596 mile
第三日目	521 mile
第四日目	537mile